

令和2年度に使用する広島市立中学校用教科用図書  
〔特別の教科 道徳〕を除く〕の採択について（答申）

教科〔音楽〕 種目〔一般〕

令和2年度に使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [ 音楽 ] 種目 [ 一般 ]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを備える文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団を始めとする優れた演奏を聴く機会や、日頃の学習の成果を発表する機会に恵まれた地域である。
- 日常的にポピュラー音楽に接する機会が多く、表現活動に興味・関心を示す生徒は多いが、読譜力を始めとする音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 表現の基礎・基本の定着を図るための工夫 ② 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫 ③ 共通事項との関連
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 学習意欲を高めるための工夫 ⑤ 問題解決的な学習を実施するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑧ 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い ⑨ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑩ 表現や鑑賞における言語活動につなげる工夫

### 3 各教科書の特徴

#### 1 基礎・基本の定着

##### 視点① 表現の基礎・基本の定着を図るための工夫

- 第1学年で「Let's Sing!」というコーナーを設け、発声の基礎の定着を図っている。
- 各学年で指揮をする際の基本的なポイントを文と図で示している。

##### 視点② 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫

- 鑑賞の教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者について分かりやすく解説している。

##### 視点③ 共通事項との関連

- 音楽を形づくっている要素に着目することができるよう、「どんな特徴があるかな？」という特設ページを各学年で設けている。
- 楽曲を通して指導する共通事項（用語や記号）を右側ページ端に示している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### 視点④ 学習意欲を高めるための工夫

- 巻頭の「With My Heart 音楽はメッセージ」で、現代の著名な音楽家や演出家のメッセージを掲載している。
- 巻末で、様々な楽器や我が国及び世界の舞台芸術を紹介している。

##### 視点⑤ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「音のスケッチ」で各学年2～3つずつの創作活動を取り上げ、活動1、活動2、活動3の順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示している。
- 「速度の変化を聴き取ってみましょう。」「ホルンの祖先は、狩猟の時の合図に用いられたそうよ。」等、表現や鑑賞をする際のヒントや説明を「吹き出し」の形で示している。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### 視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 第1学年、第2・3学年上、第2・3学年下の順で、歌唱教材は、18、19、18、計55、創作教材は、3、2、2、計7、鑑賞教材は、6、7、6、計19としている。
- 3年間ですべての歌唱共通教材を掲載するとともに、我が国や郷土の伝統音楽を扱った鑑賞教材を3年間で9教材掲載している。
- 学習内容を、「音楽の要素をとらえながら」「さまざまな音楽文化」「歌い合わせ聴き深める喜び」の3つのテーマで構成している。
- 第1学年           サイズ AB判 重さ 214g  
第2・3学年上   サイズ AB判 重さ 214g  
第2・3学年下   サイズ AB判 重さ 214g

##### 視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 発展的な学習として、各学年で、音が発生してから人が知覚するまでの物理現象や人が音を聞き分ける際の要素といった、音の物理的な性質について、その原理を解説している。
- 各学年の鑑賞教材において「聴き比べてみよう!」のコーナーを設け、比較聴取を通して鑑賞の学習をより深めようとしている。

#### 4 内容の表現・表記

##### 視点⑧ 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い

- オペラの鑑賞教材では、総合芸術の特徴が分かるよう、舞台の全体像が分かる写真を掲載している。
- 雅楽や尺八曲の鑑賞教材では、速度の変化を表す図を用いて、日本の伝統音楽の特徴である「序破急」を示したり、文章で「間」について解説したりしている。

##### 視点⑨ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

#### 5 言語活動の充実

##### 視点⑩ 表現や鑑賞における言語活動につなげる工夫

- 第2・3学年上・下の創作教材「音のスケッチ」で、作品を聴いて感じたことを話し合う活動を設定している。
- 各学年の鑑賞教材において、楽曲から聴き取ったことや感じ取ったことを書き込むための「伝えてみよう!」の欄を設け、言葉で伝え合う活動を設定している。

**1 基礎・基本の定着**

**視点① 表現の基礎・基本の定着を図るための工夫**

- 各学年で「My Voice!」というコーナーを設け、発声の基礎の定着を図っている。
- 各学年で指揮をする際の基本的なポイントを文と図で示すとともに、効果的な指揮の仕方についても示している。
- 表現の基礎を定着させるために、各学年で、音符や休符、記号の名称や意味、簡単なリズムの読み書きを定着させるための「BINGO GAME」「RHYTHM GAME」というコーナーを設けている。
- 低音部の学習の導入をしやすくするため、初めて学習するへ音譜表の一段目に階名を記している。

**視点② 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫**

- 鑑賞の教材ごとに、聴くポイントを簡潔に示すとともに、音楽の背景や楽曲・作曲者について分かりやすく解説している。

**視点③ 共通事項との関連**

- 音楽を形づくっている要素に着目することができるよう、巻頭に「音楽学習 MAP」という特設ページを各学年で設けている。
- 楽曲を通して指導する共通事項（音楽を形づくっている要素）を教材名の横に、アイコンで示している。

**2 主体的に学習に取り組む工夫**

**視点④ 学習意欲を高めるための工夫**

- 巻頭で、世界の音楽文化と日本の音楽文化の様子を掲載している。
- 巻末で、様々な楽器や世界の祭りや踊りを紹介しており、特に、能、歌舞伎、文楽といった我が国の伝統芸能を多く紹介している。

**視点⑤ 問題解決的な学習を実施するための工夫**

- 「My Melody」及び「Let's Create!」で各学年2つずつの創作活動を取り上げ、Warming up、①、②、③といった順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示している。
- 思考・判断をさせるための問いかけを「吹き出し」の形で示している。
- 各学年で「Grade up!」のコーナーを設け、パートの役割や曲の構成について考えさせ、思いや意図をもって創造的に表現させる学習活動を示している。

**3 内容の構成・配列・分量**

**視点⑥ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 歌唱教材を計60、創作教材を計6、鑑賞教材を計25としている。
- 3年間ですべての歌唱共通教材を掲載するとともに、我が国や郷土の伝統音楽を扱った鑑賞教材を3年間で10教材掲載している。
- 前半に歌唱教材、後半に鑑賞教材を配置している。
- 巻頭の「音楽学習マップ」で、表現と鑑賞の関連を示している。
- 第1学年           サイズ AB判 重さ 190g
- 第2・3学年上   サイズ AB判 重さ 192g
- 第2・3学年下   サイズ AB判 重さ 206g

**視点⑦ 発展的な学習に関する内容の記述の状況**

- 発展的な学習として、各学年で、鑑賞教材の誕生と同時代の日本の歴史的事象を紹介したり、音楽用語が生まれた背景を紹介したりしている。また、日本の伝統的・歴史的事象、自然音や音環境に関する日本人の伝統的な感性について考察したりする活動を設定している。
- 各学年の表現及び鑑賞の教材において、「Challenge!!」のコーナーを設け、教材と関連した学習活動を示し、学習をより深めようとしている。

**4 内容の表現・表記**

**視点⑧ 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い**

- オペラの鑑賞教材では、総合芸術の特徴が分かるよう、舞台の全体像が分かる写真を掲載するとともに、オーケストラの位置について示した図も掲載している。
- 箏曲や尺八曲の鑑賞教材では、速度の変化を表す図を用いて、日本の伝統音楽の特徴である「序破急」を示したり、文章で「間」について解説したりしている。

**視点⑨ 文字の大きさや配色等の工夫**

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

**5 言語活動の充実**

**視点⑩ 表現や鑑賞における言語活動につなげる工夫**

- 各学年の創作教材で、作品を聴いて感じたことを話し合う活動を設定している。
- 各学年の「Grade up!」「ここに注目してみよう!」のコーナーや吹き出しで、歌唱教材では表現の工夫のしかたについて考えたことを話し合う活動、鑑賞教材では楽曲を聴いて感じたことを話し合う活動を設定している。
- 第2・3学年下の鑑賞教材で、プレゼンテーションするための手順を示し、鑑賞曲のよさをプレゼンテーションする活動を設定している。また、その手法を別の鑑賞教材で活用するよう示している。

#### 4 意見

##### 意見1 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

教育芸術社の教科書の特徴である、各学年2つずつの創作活動を取り上げ、Warming up、1、2、3の順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示していること、思考・判断をさせるための問いかけを「吹き出し」の形で示していること、各学年にコーナーを設け、パートの役割や曲の構成について考えさせ、思いや意図をもって創造的に表現させる学習活動を示していること、各学年にコーナーや吹き出しを設け、歌唱教材では表現の工夫のしかたについて考えたことを話し合う活動、鑑賞教材では楽曲を聴いて感じたことを話し合う活動を設定していること、第2・3学年の鑑賞教材で、プレゼンテーションの手順を示し、鑑賞曲のよさをプレゼンテーションする活動を設定するとともに、その手法を別の鑑賞教材で活用するよう示していることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

本教科書について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した調査・研究報告書を基に審議した結果、各学年に「Grade up!」「ここに注目してみよう!」のコーナーや思考・判断をさせるための問いかけをする「吹き出し」を設け、歌唱教材では、どこに気をつけて歌えばよいか表現の工夫のしかたについて考えたことを話し合う活動を、鑑賞教材では、注目する視点を示し、楽曲を聴いて感じたことを話し合う活動を設定しており、表現及び鑑賞の活動を深められるよう工夫している特徴もあり、本市で使用する教科書としてよりふさわしいと考えられる。

なお、本教科書は、平成27年度に採択し、平成28年度から平成31年度まで全市立中学校において使用しているが、特段の問題はない。

##### 意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書の特徴である、巻頭の「With My Heart 音楽はメッセージ」で、現代の著名な音楽家や演出家のメッセージを掲載していること、「音のスケッチ」のコーナーで各学年2～3つずつの創作活動を取り上げ、活動1、活動2、活動3の順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示していること、各学年の鑑賞教材において、楽曲から聴き取ったことや感じ取ったことを書き込むための「伝えてみよう!」の欄を設け、言葉で伝え合う活動を設定していることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。



令和2年度に使用する広島市立中学校用教科用図書  
(「特別の教科 道徳」を除く)の採択について(答申)

教科〔音楽〕種目〔器楽合奏〕

令和2年度に使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [ 音楽 ] 種目 [ 器楽合奏 ]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、市内中心部に大ホールを備える文化施設を有するとともに、各区に区民文化センターを設置しており、広島交響楽団を始めとする優れた演奏を聴く機会や、日頃の学習の成果を発表する機会に恵まれた地域である。
- 日常的にポピュラー音楽に接する機会が多く、表現活動に興味・関心を示す生徒は多いが、読譜力を始めとする音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫 ② 共通事項との関連
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 問題解決的な学習を実施するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
<内容の表現・表記>	⑦ 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫
<言語活動の充実>	⑨ 表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする学習活動の工夫



### 3 各教科書の特徴

#### 1 基礎・基本の定着

##### 視点① 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて分かりやすく解説している。
- 生徒が常に参照できるよう、巻末に「リコーダーの運指表」と「ギター&キーボードコード表」を掲載している。
- ギターのTAB譜が付けられた楽曲の掲載があり、読み方の解説がある。

##### 視点② 共通事項との関連

- 「Let's Play!」や「Let's Try!」で、楽曲を通して指導する共通事項を文章で示している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### 視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 巻頭、巻末の「With My Heart 音楽はメッセージ」で、著名な音楽家の写真とメッセージを掲載している。
- 巻頭の「制作現場を訪ねて」で、演劇やミュージカル、映画などで使われる音楽のコンピューターによる音源制作やスタジオ・レコーディングの様子を写真と言葉で紹介している。
- 巻末の「名曲旋律集」で、歌唱共通教材の楽譜に箏で演奏できる楽譜を付し、歌のイメージをもって演奏に取り組めるようにしている。

##### 視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 「音のスケッチ」で3つの創作活動を取り上げ、内2つで、活動1、活動2、活動3の順で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示している。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### 視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 「演奏の仕方を身につけよう」「合わせて演奏しよう」「名曲旋律集」に口絵を付して構成している。
- リコーダー曲を26曲、ギター曲を6曲、和楽器曲を15曲、アンサンブル・合奏曲を20曲掲載している。（計67曲）
- サイズ AB判 重さ 232g

##### 視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 水道管で篠笛を作る活動を示している。

#### 4 内容の表現・表記

##### 視点⑦ 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八）の見出しと共に、演奏場面の写真を掲載している。
- 楽器のルーツや系譜、構造を文章や写真で示している。
- 太鼓について、様々な演奏形態が比較できるよう写真を掲載している。

##### 視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

#### 5 言語活動の充実

##### 視点⑨ 表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする学習活動の工夫

- 「自分が興味をもったほうの作品について、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」「曲全体を通して聴いて、自分がいちばんおもしろいと感じた部分を、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」等の言語活動例を示している。

1 基礎・基本の定着

**視点① 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫**

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八・打楽器）の各部の名称、姿勢と構え方、基礎的な奏法を、写真やイラストを用いて分かりやすく解説している。
- 生徒が常に参照できるよう、巻末に「リコーダーの運指表」と「ギター&キーボードコード表」を掲載している。
- リコーダーの基礎的な奏法を身に付けるためのポイントを、Q&A方式で示している。

**視点② 共通事項との関連**

- 「アンサンブルセミナー」では、楽曲を通して指導する共通事項をアイコンで示し、「アンサンブル」では文章で示している。
- 巻頭に「音楽学習MAP」という特設コーナーを設け、音楽を形づくっている要素に着目することができるようにしている。

2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③ 学習意欲を高めるための工夫**

- 巻頭の「楽器と出会うー奏者から皆さんへー」で、著名な音楽家の写真とメッセージを掲載している。
- 巻頭の「比べよう」で、様々な長さの尺八や篠笛を紹介している。
- リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八で「楽器の音色を聴いてみよう」のコーナーを設け、楽器特有の音色のイメージをもって演奏に取り組めるようにしている。
- リコーダー・ギター・箏・三味線・太鼓・篠笛・尺八で「音を聴いて確かめよう！」のコーナーを設け、より豊かな表現を工夫するためのヒントを示している。

**視点④ 問題解決的な学習を実施するための工夫**

- 「My Melody」「ここが分かればGrade Up!」3つの創作活動を取り上げ、手順①、手順②等の表し方で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示している。
- 「アンサンブル」で「楽器の組み合わせ方を工夫しよう」のコーナーを設け、思考・判断し表現する学習を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

**視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 「Let's play instruments!」「アンサンブルセミナー」「アンサンブル」「名曲スケッチ」に口絵を付して構成している。
- リコーダー曲を24曲、ギター曲を3曲、和楽器曲を7曲、アンサンブル・合奏曲を19曲掲載している。(計53曲)
- サイズ AB判 重さ 206g

**視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況**

- 「Challenge!!」のコーナーを設け、発展的な学習活動を示している。
- 箏の掲載箇所に、「姿勢と礼儀」のコーナーを設け、日本の伝統文化の精神について説明している。

4 内容の表現・表記

**視点⑦ 本文と適切な関連付けがなされた解説と視覚資料の扱い**

- 楽器（リコーダー・ギター・箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八）の見出しと共に、演奏場面の写真を掲載している。
- 「楽器を知ろう」やコラム「和楽器こぼれ話」で、箏および三味線の楽器のルーツや系譜、構造を文章や写真で示している。
- ギター・三味線・太鼓について、様々な演奏形態が比較できるように写真を掲載している。
- リコーダー・三味線・篠笛について、構え方の失敗例や奏法の重要な部分をアップや吹き出しで示している。

**視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫**

- ユニバーサルデザインに配慮した、判読しやすい配色やレイアウトにしている。

5 言語活動の充実

**視点⑨ 表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする学習活動の工夫**

- 「アンサンブルセミナー」に「Grade up!」のコーナーを設け、グループで話し合いながら思考・判断したり表現したりする言語活動例を示すとともに、工夫する視点を吹き出しで示している。

#### 4 意見

##### 意見1 教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

教育芸術社の教科書の特徴である、「音を聴いて確かめよう！」のコーナーを設け、より豊かな表現を工夫するためのヒントを示していること、「My Melody」等で3つの創作活動を取り上げ、手順①、手順②等の表し方で、思考・判断し表現する一連の学習過程を示していること、生徒に創造的な表現活動に取り組ませるための「アンサンブル」のコーナーで、「楽器の組み合わせ方を工夫しよう」のコーナーを設け、思考・判断し表現する学習を設定していること、創造的な表現の基礎を身に付けさせるための「アンサンブルセミナー」のコーナーに「Grade up!」のコーナーを設け、グループで話し合いながら思考・判断したり表現したりする言語活動例を示すとともに、工夫する視点を吹き出しで示していることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

本教科書について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した調査・研究報告書を基に審議した結果、リコーダー奏法に関して、Q&A方式でポイントを示したり、リコーダー・三味線・篠笛について、構え方の失敗例や奏法の重要な部分をアップや吹き出しで示したりするなど、楽器演奏に必要な基礎的な技能を習得できるよう工夫している特徴もあり、本市で使用する教科書としてよりふさわしいと考えられる。

なお、本教科書は、平成27年度に採択し、平成28年度から平成31年度まで全市立中学校において使用しているが、特段の問題はない。

##### 意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書の特徴である、巻末の「名曲旋律集」で、歌唱共通教材の楽譜に箏で演奏できる楽譜を付し、歌のイメージをもって演奏に取り組めるようにしていること、3つの創作活動を取り上げ、内2つで思考・判断し表現する一連の学習過程を示していること、「自分が興味をもったほうの作品について、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」「曲全体を通して聴いて、自分がいちばんおもしろいと感じた部分を、みんなに紹介する文章を書いてみよう。」等の言語活動例を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、音楽活動の基礎的な能力が十分に身に付いていないことから、表現及び鑑賞の各活動を深めていくまでには至らないという課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。



令和2年度に使用する広島市立中学校用教科用図書  
(「特別の教科 道徳」を除く)の採択について(答申)

教科 [ 美術 ] 種目 [ 美術 ]

令和2年度に使用する中学校用教科用図書の採択について

教科 [ 美術 ] 種目 [ 美術 ]

1 本市の実態や生徒の状況

- 本市は、美術作品等に直接触れることができる文化的施設の多い市街地をもつ。また、山林を主体とした自然豊かな地域や沿岸部など、変化に富んだ様々な環境が見られる地域もある。
- 生徒は、美術への関心・意欲が比較的高く、学習に意欲的に取り組む生徒が多い一方で、生活経験の不足から、自ら主題を設定し、計画的に制作したり、自分の価値をもって批評し合ったりする方に課題がある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 技法や表現方法に関する記述 ② 日本の伝統や文化に関する内容
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 学習意欲を高めるための工夫 ④ 生活や社会と美術とのかかわりを考えさせるための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量 ⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況
＜内容の表現・表記＞	⑦ 本文と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用 ⑧ 文字の大きさや配色等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑨ 説明し合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の工夫

### 3 各教科書の特徴

#### 1 基礎・基本の定着

##### 視点① 技法や表現方法に関する記述

- 第1学年では、巻末8ページに「パレットコーナー」「工具箱」「色彩ホームページ」を、第2・3学年では巻末2ページに「色彩ホームページ」を掲載し、基本的な技法や表現方法等を示している。
- 題材に応じて、緑色の四角囲みのコーナーを設け、表現方法の工夫や制作の手順を示している。

##### 視点② 日本の伝統や文化に関する内容

- 第1学年で「東海道五十三次之内 庄野」、第2・3学年で「群青富士」「松林図屏風」「阿修羅像」等の題材を取り上げている。また、「群青富士」においては、右隻を3ページにわたり見開きで掲載している。
- 第2・3学年巻末の「色彩ホームページ」で、日本の伝統色と日本の配色文化について掲載している。
- 第2・3学年巻末に、日本・中国・アジア・西洋の美術史年表を、日本の美術作品の写真を付して掲載している。
- 「原寸ギャラリー」で、第1学年では「樹花鳥獣図屏風」、第2・3学年では「桜図」を取り上げ、一部を原寸大で掲載している。
- 第2・3学年では「絵巻物の世界」「伝統の美に学ぶ」、同巻末で「伝統工芸を知ろう」を特集し、掲載している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### 視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 各題材の末尾に「ふりかえり」を設け、4つの観点（「関心・意欲・態度」「発想・構想」「創造的な技能」「鑑賞」）で、振り返りの内容を示している。
- 見開き3ページで、美術作品を大きく掲載している。また、「原寸ギャラリー」を設け、作品の一部を原寸大で掲載している。
- オレンジ色の◇マークを付して、単元ごとに考えを深めるヒントを示している。
- 題材に応じて鋏マークを付して、題材に関連する知識や情報を示している。
- 第2・3学年の「デザインで伝える」において、「ヒロシマ・アピールズ 1983」を掲載している。

##### 視点④ 生活や社会と美術とのかかわりを考えさせるための工夫

- 第1学年に「生活を豊かに」「材料を生かして」、第2・3学年に「デザインで伝える」「環境をデザインする」等の題材を設定し、生活と社会と美術とのかかわりを考えながら学習するようにしている。
- 第2・3学年巻頭に「美術はいつも生活や暮らしの中に」を設け、美術の学習で身に付けた力を生かして働く人々の経験や思いを掲載している。また、第1学年巻頭に「美術って、何だろう？」を設け、日々の生活や社会と美術のつながりを考えさせるようにしている。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### 視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 全2冊で、第1学年、第2・3学年としている。
- 第1学年が全57ページ、第2・3学年が107ページである。
- 1つの題材を見開き2～8ページで掲載している。
- 題材等を「絵や彫刻等」「デザインや工芸等」「ガイダンスや資料的な内容」に分類し配列している。
- 第1学年の題材の数は、全19である。そのうち「絵や彫刻」に関するものが7、「デザインや工芸」に関するものが4、「鑑賞」に関するものが2、「ガイダンスや資料的な内容」に関するものが6である。  
第2・3学年の題材の数は、全29である。そのうち「絵や彫刻」に関するものが9、「デザインや工芸」に関するものが8、「鑑賞」に関するものが10、「ガイダンスや資料的な内容」に関するものが2である。

○ 第1学年 サイズ A4判 重さ 215g

第2・3学年 サイズ A4判 重さ 378g

**視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況**

- 第2・3学年の「デザインで伝える」で、生徒の関心に応じてロゴタイプ、ポスター、絵本、アニメーション等の表現方法を生徒が選べるように設定している。

**4 内容の表現・表記**

**視点⑦ 本文と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用**

- 作家の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、制作年、所蔵先、作者名を掲載している。
- 生徒の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、作者の言葉を掲載している。
- 作家の作品、生徒の作品ともに一部のものには、(作者)と付し、作品に対する思い等を掲載している。

**視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫**

- 題材名をゴシック体で示すとともに、ポイントとなる言葉を大きく示している。
- ユニバーサルデザインに配慮した、写真の配置や配色が工夫されている。

**5 言語活動の充実**

**視点⑨ 説明し合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の工夫**

- 鑑賞の題材には、話合いのきっかけになる問いかけを示している。
- 意見交換しながら作品を制作したり話し合ったりする言語活動例を、写真を付して示している。
- 第2・3学年の「デザインで伝える」や「デザインする心」等で、マインドマップやブレインストーミングを活用した話合いやプレゼンテーション等の言語活動例を、写真を付して示している。



## 1 基礎・基本の定着

### 視点① 技法や表現方法に関する記述

- 第1学年では、巻末18ページに「絵の具で描く」「さまざまな技法で描く」「形と材料の特徴を知ろう」等を、第2・3学年では巻末12ページに、「映像メディアを活用する」「金属や石でつくる」「色と光の特徴を知ろう」等を掲載し、多種多様な技法や表現方法等を示している。
- 題材に応じて、制作の手順を示すコーナーを設けている。
- 下部に矢印を付して、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。

### 視点② 日本の伝統や文化に関する内容

- 第1学年で「風神雷神図屏風」、第2・3学年で「阿修羅像」「松林図屏風」「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」等の題材を取り上げている。また、「風神雷神図屏風」においては、4ページにわたり見開きで掲載している。
- 第2・3学年巻末の「色と光の特徴を知ろう」で、日本の伝統色、顔料、重ねの色目について掲載している。
- 第2・3学年巻末に、日本・朝鮮・中国・世界の美術史年表を、日本の美術作品の写真を付して掲載している。
- 「原寸大で鑑賞しよう」で、第1学年では「火焰型土器」、第2・3学年では「鳥獣花木図屏風」を取り上げ、作品の一部を原寸大で掲載している。
- 第1学年の「自然とともにある日本の美」、第2・3学年では「浮世絵から学ぶ江戸の職人技」、「季節感のある暮らしを楽しむ」より和菓子、巻末に「飛鳥・奈良時代の仏像」「ジャポニスム」「絵巻物を楽しむ」等のトピックを掲載している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### 視点③ 学習意欲を高めるための工夫

- 各題材の目標を題材名の横に4つの観点で示すとともに、各目標の横にチェック欄を設け、生徒が自己評価できるように示している。また、目標の下にQマークを付し、形や色、材料等のことや、それらがもたらすイメージについて考えさせる問いかけを示している。
- 「特別展示室」を設け、見開き4ページで美術作品を大きく掲載している。また、鑑賞の題材「原寸大で鑑賞しよう」を設け、作品の一部を原寸大で掲載している。
- 電球マークやハートマークを付して、学習を進める際のヒントや道徳科との関連を示している。
- 題材により、生活と美術とのかかわりや作家の活動等、学習を深める内容を四角の枠の中にコラムとして示している。
- 第2・3学年の「メッセージを伝えるポスター」において、2013年までのヒロシマ・アピールズの全ポスターを掲載している。
- 現在活躍する作家を第1学年、第2・3学年ともに2ページにわたって特集して掲載している。

### 視点④ 生活や社会と美術とのかかわりを考えさせるための工夫

- 第1学年に「気持ちを伝えるデザイン」「生活の中の焼き物」、第2・3学年に「みんなのためのデザイン」「包みの工夫、パッケージデザイン」等の題材を設定し、生活や社会と美術とのかかわりを考えながら学習するようにしている。
- 第2・3学年巻頭に「朝起きてから夜眠るまでの美術」やコラムを設け、一日の生活の中で美術に関わるものを掲載し、日々の生活や社会と美術のつながりを考えさせるようにしている。
- 生活と関連の深い活動に、「生活に生かそう」マークを付している。
- 第1学年巻末に「体験しよう！美術館」を2ページにわたって設け、社会の中の美術文化とのかかわりを促している。

## 3 内容の構成・配列・分量

### 視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

- 全2冊で、第1学年、第2・3学年としている。
- 第1学年が全67ページ、第2・3学年が105ページである。
- 1つの題材を見開き2ページで掲載している。各学年とも表現中心の題材のうち見開き4ページで掲載しているものがある。
- 題材等を「絵や彫刻等」「デザインや工芸等」「材料や用具等学習を支える資料」に分類し

配列している。

- 第1学年の題材の数は、全27である。そのうち「絵や彫刻」に関するものが6、「デザインや工芸」に関するものが5、「鑑賞」に関するものが7、「材料や用具等学習を支える資料」に関するものが9である。

第2・3学年の題材の数は、全40である。そのうち「絵や彫刻」に関するものが14、「デザインや工芸」に関するものが10、「鑑賞」に関するものが9、「材料や用具等学習を支える資料」に関するものが7である。

- 第1学年 サイズ A4判 重さ 218g
- 第2・3学年 サイズ A4判 重さ 384g

#### 視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況

- 第1学年巻末の「体験しよう！美術館」で、美術館の取組や役割を紹介し、美術館について調べる活動を示している。

#### 4 内容の表現・表記

##### 視点⑦ 本文と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

- 作家の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、制作年、所蔵先、作者名を掲載している。
- 生徒の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、作者の言葉を掲載している。
- 作家の作品、生徒の作品ともに一部のものには、青色の四角囲みの中に制作のきっかけとなったことや題材に対する思い等を掲載している。

##### 視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫

- 題材名を影の付いた独自の書体で示すとともに、ポイントとなる言葉を大きく示している。
- ユニバーサルデザインに配慮した、背景色と文字の組み合わせが工夫されている。

#### 5 言語活動の充実

##### 視点⑨ 説明し合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の工夫

- 題材に応じて、「目標」に「話し合おう」等と言語活動を指示している。
- 意見交換しながら作品を制作したり、話し合ったりする言語活動例を、写真を付して示している。
- 第2・3学年の「メッセージを伝えるポスター」で、ポスター制作におけるテーマ選びや主題決定等について、アイデアスケッチやワークシートを活用して話し合う言語活動例を示している。
- 鑑賞レポートや発見レポート、アイデアスケッチの言語活動例を示している。
- マッピングで発想を広げる方法を示している。
- 巻頭の「うつくしい！」で作品を見開きで大きく掲載し、思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする言語活動例を示している。

1 基礎・基本の定着

**視点① 技法や表現方法に関する記述**

- 第1学年では、巻末10ページ、第2・3学年上では巻末5ページ、第2・3学年下では巻末2ページに「技法の資料」「色彩の資料」を掲載し、基本的な技法や表現方法を示している。
- 題材に応じて、制作の手順を示すコーナーを設けている。
- 「参照」マークを付して、関連する技法や表現方法等の参照先を示している。
- 油絵は、色や筆跡を鮮明に撮影し、掲載している。

**視点② 日本の伝統や文化に関する内容**

- 第2・3学年上・下で「蓮華王院」より様々な仏像、「吉野龍田図屏風」等の題材を取り上げている。また、「蓮華王院」においては4ページにわたり見開きで蓮華王院内を掲載している。
- 第2・3学年上巻末の「色について理解を深めよう」で、日本の伝統色について掲載している。
- 第2・3学年上巻末に、日本・中国・西洋の美術史年表を、日本の美術作品の写真を付して掲載している。
- 第2・3学年上では、「富嶽三十六景」2作品を取り上げ、和紙（機械すき）に印刷された原寸大の作品を掲載している。
- 第1学年の「伝統の中の動物たち」、第2・3学年上・下では「漫画表現の豊かさ」より絵巻、「日本の美意識」、「自然を愛でる空間」より日本の伝統家屋、巻末に「日本の世界文化遺産」を特集し、掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③ 学習意欲を高めるための工夫**

- 各題材の目標を題材名の横に4つの観点で示している。
- 「教科書美術館」を設け、見開き4ページで美術作品を大きく掲載している。また、「富嶽三十六景」2作品を取り上げ、和紙（機械すき）に印刷された原寸大の作品を掲載している。
- 「POINT」マークや三つ葉マークを付して、学習を進める際のヒントや道徳科との関連を示している。
- 題材に応じて四角の枠の中に、題材に関連する知識や情報を示している。
- 第2・3学年上の「豊かなイメージで伝えよう」において、1984年のヒロシマ・アピールズ「鳥たち」を掲載している。

**視点④ 生活や社会と美術とのかかわりを考えさせるための工夫**

- 第1学年に「楽しく伝える文字のデザイン」「記憶に残るシンボルマーク」、第2・3学年に「やさしさのデザイン」「魅力が伝わるパッケージ」等の題材を設定し、生活や社会と美術とのかかわりを考えながら学習するようにしている。
- 第2・3学年下巻頭に「夢をかたちにするデザイン」を設け、身の回りにあるデザインを掲載し、美術の力を生かして働く人々を紹介している。
- 第2・3学年下巻末に「アートを体験する場に出かけよう」を3ページにわたって設け、社会の中の美術文化とのかかわりを促している。

3 内容の構成・配列・分量

**視点⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量**

- 全3冊で、第1学年、第2・3学年上、第2・3学年下としている。
- 第1学年が全59ページ、第2・3学年上が57ページ、第2・3学年下が57ページである。
- 1つの題材を見開き2ページ、または4ページで掲載している。
- 題材等を「オリエンテーション」「絵や彫刻等」「デザインや工芸等」「学習に役立つ資料」に分類し配列している。
- 第1学年の題材の数は、全32である。そのうち「オリエンテーション」に関するものが2、「絵や彫刻」に関するものが7、「デザインや工芸」に関するものが7、「鑑賞」に関するものが4、「学習に役立つ資料」に関するものが12である。
- 第2・3学年上・下の題材の数は、全58である。そのうち「オリエンテーション」に関するものが5、「絵や彫刻」に関するものが12、「デザインや工芸」に関するものが11、「鑑賞」に関するものが10、「学習に役立つ資料」に関するものが20である。
- 第1学年           サイズ   A4判よりやや横に大きい変形サイズ   重さ   262g
- 第2・3学年上   サイズ   A4判よりやや横に大きい変形サイズ   重さ   256g
- 第2・3学年下   サイズ   A4判よりやや横に大きい変形サイズ   重さ   256g

**視点⑥ 発展的な学習に関する内容の記述の状況**

- 第2・3学年下巻末の「アートを体験する場に出かけよう」で、アートプロジェクトやアートイベント、美術館を紹介している。

4 内容の表現・表記

**視点⑦ 本文と適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用**

- 作家の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、制作年、所蔵先、作者名を掲載している。

- 生徒の作品の解説としては、作品名、素材、大きさ、作者の言葉を掲載している。
- 作家の作品、生徒の作品の一部のものには、朱色の「作者の言葉」マークを付し、作品に対する思い等を掲載している。

**視点⑧ 文字の大きさや配色等の工夫**

- 題材名を丸ゴシック体で示すとともに、ポイントとなる言葉を太字で示している。
- ユニバーサルデザインに配慮した、配色や文字の大きさが工夫されている。

**5 言語活動の充実****視点⑨ 説明し合ったり、批評し合ったりするなどの学習活動の工夫**

- 題材に応じて、「目標」に「話し合おう」等と言語活動を設定している。
- 意見交換しながら作品を制作したり、話し合ったりする言語活動例を、写真を付して示している。
- 第2・3学年下の「魅力が伝わるパッケージ」で、企画を説明し合ったり、企画を決定する話し合いやプレゼンテーションをしたりする活動を示している。
- アイデアスケッチやリサーチレポート、企画書等の言語活動例を示している。

#### 4 意見

##### 意見1 光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

光村図書出版の教科書の特徴である、各題材の目標を題材名の横に4つの観点で示すとともに、各目標の横にチェック欄を設け、生徒が自己評価できるようにし、さらに、目標の下にQマークを付して、形や色、材料等のことや、それらがもたらすイメージについて考えさせるための問いかけを示していること、電球マーク等を付して、学習を進める際のヒントや道徳科との関連を示していること、生活と関連の深い活動に「生活に生かそう」マークを付していること、鑑賞レポートや発見レポート、アイデアスケッチなどの言語活動例を示していること、巻頭の「うつくしい！」で作品を見開きで大きく掲載し、思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって、批評し合ったりする言語活動例を設けていることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、自ら主題を設定し、計画的に制作する力や自分の価値をもって批評し合う力に課題がある本市生徒の状況により対応することができるものである。

本教科書について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した調査・研究報告書を基に審議した結果、鑑賞レポートや発見レポート、アイデアスケッチ、マッピング等、多様な言語活動例を示したり、巻頭「うつくしい！」において、自分の価値意識をもち、それを大切にしながら、作品について話し合うよう促したりしており、自分の価値をもって批評し合うことができるよう工夫している特徴もあり、本市で使用する教科書としてよりふさわしいと考えられる。

なお、本教科書は、平成27年度に採択し、平成28年度から平成31年度まで全市立中学校において使用しているが、特段の問題はない。

##### 意見2 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

日本文教出版の教科書の特徴である、各題材の目標を題材名の横に4つの観点で示していること、「POINT」マークや三つ葉マークを付して、学習を進める際のヒントや道徳科との関連を示していること、第2・3学年下の「魅力が伝わるパッケージ」で、企画を説明し合ったり、企画を決定する話し合いやプレゼンテーションをしたりする活動を設定していること、アイデアスケッチやリサーチレポート、企画書等の言語活動例を示していることは、思考力、判断力、表現力の育成を目指すひろしま型カリキュラムを推進している本市の取組や、自ら主題を設定し、計画的に制作する力や自分の価値をもって批評し合う力に課題がある本市生徒の状況に対応することができるものである。

